

会 議 録

会 議 名	平成23年度第1回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事 務 局	文化推進係 はけの森美術館		
開 催 日 時	平成23年5月17日（火）午後6時00分から午後7時50分		
開 催 場 所	小金井市役所第2庁舎8階 802会議室		
出 席 委 員	鉄矢悦朗会長 千村裕子委員 鈴木茂哉委員 豊岡弘敏委員		
欠 席 委 員	宮村令子副会長 淀井彩子委員		
事 務 局 員	学芸顧問 薩摩雅登 学芸員 荒木和、神津瑛子、中村ひの 文化推進係 吉川まほろ 高野修平 はけの森美術館事務 山田耕太郎		
傍 聴 の 可 否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
会 議 次 第	1 美術館の運営について (1) 平成22年度の事業実施状況について (2) 平成23年度の事業について 2 その他 (1) 美術館改修等工事・展示室空調等 10月開始予定 (2) その他		

鉄矢会長 では、平成23年度第1回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開催したいと思います。

お手元の資料の確認からします。次第、議事内容があるものと、それから、平成22年度教育普及事業「展覧会とは別立ての事業」というのと、右肩に5月17日付のもの。横長の表組のもの1枚。東京都教育庁地域教育支援部の横組のもの。博物館法、文化庁の登録有形文化財のパンフレットのコピー。「年報の制作について」、「5周年展入場者数」というものです。また、会議の途中で資料がなければ、その旨お伝えください。

鈴木委員 では、会長、人事異動の関係をここで。

鉄矢会長 はい、わかりました。

鈴木委員 4月1日付で人事異動等がございましたので、新しく入った職員等についてご紹介させていただきます。まず、学芸員のほうから申し上げます。4月1日付で年報作成業務ということで、1年間務めていただくことになりました中村でございます。

中村学芸員 中村と申します。1年間、主に年報の作成業務に当たらせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

鈴木委員 それと事務局のほうで、文化推進係長として務めてこられました山田前係長が、引き続き、はけの森美術館の事務担当ということで、再任用職員として務めていただくことになっております。

事務局(山田) 山田です。よろしくお願ひします。

鈴木委員 なお、前任の事務の中嶋ですが、教育委員会の学務課に異動になっております。さらに、文化推進係に4月1日付で配属になりました、新入職員の高野でございます。

事務局(高野) 4月1日付、小金井市役所に入所いたしました、高野修平と申します。民間企業を経て来ているので、今年29歳という年齢ですけれども、フレッシュな気持ちを持って一生懸命頑張りますので、よろしくお願ひいたします。

鈴木委員 4月24日市長選がございまして、その結果、新しく市長が佐藤和雄氏に交代しておりますので、あわせてご報告させていただきます。  
以上です。

#### 1 美術館の運営について

##### (1) 平成22年度の事業実施状況について

鉄矢会長 では、議事に入りたいと思います。

美術館の運営について、(1)平成22年度の事業実施状況について学芸員のほうからよろしくお願ひします。

神津学芸員 昨年度、最後の運営協議会の直後に行われたワークショップ「バルーンの森で迷路あそび」の報告です。地元の企業と一緒にワークショップをして、大変成功した例ではないかと思ひます。

展示室内を全部風船で埋めつくして、迷路をつくって、チームに分かれてクイズ対抗戦をしました。大人も子供も楽しめるワークショップになったかなと思ひます。

講師にいろいろな風船を用意していただき、素材を楽しみながら自分でつくってチームワーク作業でいろいろつくって遊んで、最後は持って帰っていただきました。ほとんどの風船を皆さん持って帰りました。風船を抱えて、はけの森を楽しそうに出ていかれた姿が印象的でした。

ホームページにも少し載っていますので、あわせてごらんください。これは継続して企画してもいいかなと思ひております。

荒木学芸員 昨年度3月に始まり、現在も開催中の開館5周年記念展及び関連事業についてのご報告です。あわせて会期中の3月11日に東日本大震災が発生したその日及びその後の当館の状況、その対応について報告させていただきます。

5月5日をもちまして、5周年記念展関連はすべて終了いたしました。一番初めは、展覧会をオープンする前日です。たまたま日程の都合で、関係者向けの内覧会と一般公開の間に1日空白があったもので、これをむだにしたくはないということで、市民の方に宣伝部員になってもらおう、はけの森を知ってもらって、宣伝してもらおうというコンセプトで、無料招待のイベントを企画しました。

人数は、当初想定よりも少ない人数でしたけれども、初めての方も何度

も来ている方も、はけの森美術館に関心の高い方がいらしていただきました。ギャラリートークを行って、その際にもいろんな質問をいただきました。実施してみて気がついたことですが、好きなようにおしゃべりをしていい展示室、そういう空間ができ上がったということで、非常に参加者の皆さんがリラックスして楽しんでいただけたかと思います。

報告の最後にも書いてありますけれども、参加者のうち、何人かの方がご自身のブログ、ツイッターなどで、「はけの森美術館に行きました」というふうな記事をアップロードしてくれていました。また、一部の参加者同士では、ネット上での交流もあったようです。

そして、2番目のトークイベント、これは4月24日に行いました。展覧会が中村研一が小金井に来る前と、小金井に来てからの2部構成になっていたのも、普通の1人だけの講演ではなく、2部構成で組み立てました。前半については、「近代美術史の中の中村研一」ということで、近代美術史がご専門の河田明久先生にご講演をいただきました。後半については、財団時代の運営に深くかかわっておられた馬目世母子さんに、小金井での中村研一及び富子夫人の人物像や生活、それから、幅広い交流関係についてお話をいただきました。タイプの違う2つのトークを行ったねらいは参加者にも伝わったようで、アンケートでもそのような反応をいただいたので、まずまず成功だったかと思っています。

この内容は、後ほど報告がある今年度発行予定の年報創刊号の別冊として収録する予定になっています。

3番、5周年展会期中の5月5日に、小金井市のキャラクターのこきんちゃんに一日館長として来てもらう企画を行いました。当初は、同日にファミリー向けの別イベントを予定していたのですが、いろんな事情によりまして、なかなか参加者が集まりませんでしたので、一日館長イベントもどうなるかと思ったんですが、実際には、こきんちゃんに来るのを目指していらした方、あるいは、偶然その場で知って参加した方、皆さん、登場したこきんちゃんを温かく見守ってくれて、一緒に写真を撮ったり、近寄って握手したりしてもらえました。こきんちゃんだけを見て、美術館に入らない人も出てくるのではないかと思ったんですが、ほとんどの方が展示室まで一緒についていくという感じで、美術館自体もじっくり見ていただきました。

その他としては、学芸員による通常のギャラリートークを2回予定していましたが、1回は震災から日が浅かったせいか、来館者が少なく成立しませんでした。関連イベントについては以上です。

鉄矢会長 ありがとうございます。今、(1)で、「バルーンの森で迷路あそび」、それから、はけの森美術館5周年記念特別展、中村研一に関連するイベント等について説明を受けました。

ご質問が今のところないようなので、そのまま(2)の平成23年度の事業について。

荒木学芸員 その前に、震災関係のご報告をしたいと思います。お配りした資料に、当日及び翌日の時系列を簡単に書き出しました。

当日は、学芸員が2名、受付担当の臨時職員が1名、会場看視の臨時職員が1名出勤しておりました。当日、幸運にも、地震の起こった時間帯はお客様がちょうど途切れていて、館の職員だけでした。もちろん資料にありますように、念のためビデオモニターや職員の目視でお客様がいないことを改めて確認した上で、一度、館外に退避しました。

それから後につきましては資料をごらんいただきたいんですけども、この震災では、先に結果を申しますと、施設の一部を除いて、作品など被害はほとんどない状態でした。対応がうまくいったということにつきまして、震災直後、すぐにコミュニティ文化課と電話連絡がとれまして、最初の段階で、館長よりその後の対応について指示をいただけたこと。それによって、その日の定時の前ではあるけれども、業務を切り上げて退館するという判断をできました。11日は、余震が続いたために、点検作業などは危険があるだろうということで、早目に切り上げて、翌日に改めて出勤して、館の内外の点検をしました。これにつきましても、当日朝に館長に連絡をとりまして、改めて臨時休館にする許可を得ました。

3月12日に終日点検を行った結果、展示室、収蔵庫をはじめ、主要な設備、お客様が出入りする施設には深刻な異常・損傷はなく、翌日以降の開館に差し支えないということで、13日、日曜日からの再開を決定しました。

その13日、再開の1日目ですけれども、震災直後なので、どうなるかと思いましたが、朝10時開館の時点で数人のお客様がお待ちで、その後も天気がよかったこともあるんでしょうけれども、通常土曜・日曜と変わらない数のお客様がいらっしゃいました。

この頃、他の美術館ではほとんど点検などのために、12日・13日の週末、あるいはさらに1週間休館しているところが多かったんですけども、当館の場合は、規模が小さいがゆえに、いろいろなところに点検の目が届いたので、比較的早く再開することができました。

施設等の状況につきましては、資料2番、3番に挙げたとおりです。損傷はほとんどない、あるいは、非常に軽微なものでした。次は資料の5番になります。震災後に計画停電が実施されて、小金井市もその対象地域になりました。美術館もその中に入って、数度停電になりました。日中の停電につきましては、職員がそのまま残って、電気はないけれどもできる限りの仕事を続けながら回復を待つという状況でした。ただ、午後あるいは夕方に停電があった場合は、そのまま終業時間が来てしまい、それによって展示室の空調が翌朝まで止まってしまうということが起こりました。それに関しては、現在、他の美術館から作品を借用している企画展を行っているということで、非常に心配したんですけども、幸い展示室は作品にほぼ影響のない範囲の変動でおさまりました。

今回の震災に関して、課題として出てきたことを最後に3点ほど挙げています。これは、以前から協議会などで過去指摘されたことも含まれますが、震災によって改めて浮かび上がってきたものと思います。まず設備の問題、これは、現在の美術館の建物は個人が所有していたものだったとい

うことと、築年数が平成元年ですので、いろいろ施設が古くなってきたということです。例えばエレベーターが古く、地震が起こったときに、近くのフロアに移動して開くという安全装置がないため、地震があったら閉じ込められてしまうという問題が改めて判明しました。ですので、エレベーター自体は地震での故障はなかったんですけども、現在は使用をなるべく控えるようにしております。

それから、安全に関するマニュアルが不在だということ。当日は、声をかければすぐ届く範囲に職員全員がいたので、特に問題はありませんでしたけれども、今後、1階と2階に職員、あるいはお客様が分かれていた場合に、職員がどのように動けばよいのかを明確にしなくてはいけないというのが浮かび上がりました。これは、特にお客様と接することが多い受付や会場看視の臨時職員の方からも声が上がっていました。

順番がちょっと前後しましたがけれども、今回はたまたま平日の日中に起こった地震ですので、コミュニティ文化課が動いていた。そして、たまたま地震直後に電話がつながったということで、休館あるいは臨時職員を早退させるかといった緒判断を受けることができましたが、連絡がとれなかった場合、どのようにすればいいのかということを明確にしなければならないのではないかとということもあります。

そして最後に、これは前回のこの会議でも指摘されていましたがけれども、日によって出勤する職員が少なく美術館の安全を、地震なり火事なりが起こったときに、まずお客様、そして作品、我々職員自身の安全を確保できる人数に満たない日が頻繁にあること。これは以前から漠然と不安を抱えていましたけれども、震災によってはっきりしました。特に、コミュニティ文化課の判断をあおげない休日に非常に少ない人数しか美術館にいないことが、いまもおきています。これはどうにかならないものか、すぐには解決できなくても対応策がないものかについて、ご意見などありましたら、いただきたいと思えます。

鉄矢会長 ありがとうございます。震災発生時の状況、対応についての報告と、それから、見えてきた課題についてお話しいただきました。ご意見等ございましたら。

千村委員 地震のときは、2階の展示物などは全く動かないでいましたか。ちょっとずつ動いたものでしたか。額とかも。

荒木学芸員 大丈夫でした。この資料に挙げた範囲のみです。中村研一のブロンズ像が少し動きました。しかし、中に芯棒が通っていたので、像の向きが変わっただけで、像の位置がずれたり、落ちそうになったりということはありませんでした。

収蔵庫の中の作品も、額に入ってラックにかけられた作品については、資料にある小さな1点が落下しただけでした。ただ、額縁に入れない状態で立てかけてあった作品は、ぱたぱたと前のほうに倒れまして、他の作品とぶつかりそうになったものも幾つかありました。対面にある作品にぶつかって、ちょっと傷がついてしまったのが1点だけありました。

千村委員 では、この建物というのは、意外と揺れなかったという……。

荒木学芸員 揺れ自体は大きかったですけれども、今回の震災は、横にゆったり長時間揺れるというタイプだったせいかな、一瞬の衝撃が大きかったわけではないので、作品が動いたりということは比較的少なかったようです。

鉄矢会長 同じ質問なんですけれども、2階の陶器も動きませんでしたか。

荒木学芸員 動いていませんでした。少し位置がずれたかなというのはありましたけれども、倒れたりということは全くなかったです。

千村委員 小金井は、結構住宅街で田んぼだったところがとても多いんですけれども、ここはわりあいと地盤がしっかりしたところだったんですね。

荒木学芸員 周りに水が湧いているところが多いので、ちょっと不安にもなったんですけれども、建物全体としては大丈夫でした。

鈴木委員 非常に大きな地震が発生して、幸い平日の日中だったということもあって、コミュニティ文化課の職員も事務室のほうにほぼ全員がいたという状況で、発生直後に、先ほど荒木のほうから話もありましたが、連絡が事務所と美術館との間で連絡がとれたということで、臨時の休館とか、看視の方の勤務対処も、早期に切り上げて、お帰りいただいたという対応も迅速にとることができました。コミュニティ文化課のほうからは吉川主査が美術館に出向いて、学芸員と一緒に収蔵庫の状況確認も行いました。

また、翌日の土曜日につきましては、市役所自体は閉庁日なんですけれども、私も出勤しまして、コミュニティ文化課では集会施設を所管している課ですので、集会施設等の安全確認を済ませてから、私も美術館のほうに行きまして、損傷等の有無について確認をしました。

先ほど課題ということで挙げられていましたけれども、人員体制の問題等については、かねてからご指摘があった部分ではあります。開館当初と比べると、今年度は学芸員は3名体制ですが、通常2名体制でやってきました。その体制が今年度は、緊急雇用の制度を使って、3名を維持してまして開館当初から比べると、一定の改善はされているという認識は、持っています。しかし、まだまだ十分とは言えないということは言えるとは思いますが、現状は厳しいということが、市役所を取り巻く環境から、やむを得ないのかなという思いも持っています。

今回の震災の対応については、臨機応変に職員が対応してもらったというふうに私は感じております。

鉄矢会長 ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。

千村委員 もう一つ。ここ第3地区で計画停電が3回ありましたよね。そうすると、今、ここに書いてあるのは、停電の30分前に入場をストップして、そして、回復したら始めてという、これから夏は、もしかすると、もっと頻繁にあるかもしれないという感じもするんだけど、そういう対応だとなかなか大変ですね、煩雑というか。そして、予告は前日しか出ないですよ。

荒木学芸員 当初は、それこそ前日にならないとわからないという東京電力の発表でし

たので、こちらもその日その日の対応に苦慮していたんですけども、1週間分の予定が出るようになっていましたし、停電の時間帯もある程度パターン化されてきて、予測がつくようになりました。もしまた計画停電ということになった場合には、それに合わせて計画を立てるか、あるいは別の方法を考えるかというのは、これからの課題になると思います。

千村委員 はい、わかりました。ありがとうございます。

鉄矢会長 ほかにご質問等ございますか。お気づきの点。

なければ、年報作成のほうですか。それとも、次は、(2)の23年度事業でよろしいでしょうか。

## (2) 平成23年度の事業について

鉄矢会長 では、23年度事業について、お願いいたします。

神津学芸員 内覧会のご案内もする予定ですけども、江戸糸あやつり人形結城座、6月1日からの展覧会となっております。関連イベントもありまして、もう既に5周年展にご来館のお客様の中で、なぜ結城座なのという、楽しみにしていますという声をいただいております。同じ小金井にあるということを小金井の人が一番知らないという結城座とのやりとりの中で出てきたことから、短期のちょっと派手な展示にしようと思っております。

関連企画其の二というのが、「いとをかし人形あそび」という形であるんですけども、これは座長の十二代目結城孫三郎様に来ていただいて、人形の生着がえを見せていただくというワークショップになっています。人形を着がえさせるのが一番難しいとやりとりをしているうちに教えていただきまして、服の着せ方次第で人形の動きの幅が全然違ってくる、糸を服に通す、その通し方で、どんなに熟練の人形遣いでも、ちょっと間違えると、もう一切動かなくなってしまって、全部やり直しになるという。それなら、人形の話聞きながらそれを見せていただいて、なおかつ、人形の動きを少し模写する形で、参加者の方に関節の動きですとか、どうやってつられているかというようなことを、ちょっと体を動かして遊んでみるという、ぜいたくなワークショップを計画しています。

また5周年のロゴマークは継続して2011年はけの森美術館開館5周年と入れさせていただきます。

鉄矢会長 それから、7月16日から。

荒木学芸員 以前にもこの場で報告させていただいてますけれども、「朝倉文夫の猫たち」と題しまして、台東区立朝倉彫塑館が所蔵する猫のブロンズ像一朝倉彫塑館にはほかに石こう原型もあるんですがブロンズになっている猫は全てお借りするという形で、はけの森美術館初の彫刻展を行います。夏休みの時期でもありますし、猫という親しみやすいテーマなので、今後、猫好きに向けたメディア、猫雑誌などにも向けて、通常よりも幅広い広報を展開しようと考えています。現在チラシなどを制作してまして、関連事業などもまもなく、ご案内

内できる予定になっています。

今のところ、展覧会事業としては、この後、所蔵作品展を23年3月から5月に開催する予定となっております。

鉄矢会長 (2)のその後に引き続いて、年報制作についてお願いします。

中村学芸員 年報については、資料の1枚は大体こういった項目を年報に収録するというのでつけた、イメージサンプルのようなものです。

年報の制作ですけれども、開館してから今まで年報が出ておりませんでしたので、2006年から2010年の5年間分の活動について記載したものになります。今のところ、仮称、「小金井市はけの森美術館年報」という形で考えております。

さらに、小金井市はけの森美術館の年報に加えまして、今までのシンポジウムですとか、講演会の記録などを収録した別冊が一緒について出るということになっております。

内容などは、資料に記載したとおりなんですけれども、今の予定では、今年度の3月までの完成を目指しております。納品後、各機関、ほかの美術館、博物館ですとか、学校、市の関連施設などに送るということになっております。

進捗状況は、まだあまり具体的に報告できるようなものではないんですけれども、前任者が、入館者数、ギャラリートークの参加人数などの数字の基本的なものは拾ってくださっていますので、今そちらの校正などを行ったり、あとは体裁がばらけているところがありますので、語句の揺れですとか、そういったものを統一しまして、全体をそろえているということになっています。

シンポジウムの別冊のほうにつきましても、書き起こしのデータを講師の先生に送りまして、字数調整ですとか、確認をお願いしている状態です。

今後としましては、まだ年報を制作する業者が決まっておりませんので、決定次第、レイアウトなどをいろいろと打ち合わせて、具体的なところを詰めていくという形になります。

先ほどもお話ししましたように、サンプルとして今、大体こういった形でデータが載りますというのを次のページに添付しておりますけれども、ただ、こちらは業者さんとレイアウトを決める前に私が作業上で集めている状態ですので、実際のところは、体裁がもう少し変わるかと思えます。大体こんな感じで、展覧会のタイトル、会期、会場ですとか、あとは、こういった出版物がそれに合わせて制作されたかなどが収録される予定になっています。

鉄矢会長 はい、ありがとうございます。ここまでについて、何かご質問、ご意見等ありますでしょうか。

薩摩学芸顧問 今年の夏は、節電、あるいは、場合によっては計画停電があるのかもしれませんが、小金井市の全体として何か対応の方針とか、そういうことというのは出ているんですか。節電はどういうふうにするんだとか、停電があった場合にどうするかとか。



鈴木委員 今現在、夜間の市の公共施設については、利用を中止しているところなんです。それが現状、東京電力などの報告を一定受けて、他市の状況なども考慮した中で、6月から夜間の利用を再開するという事になっています。今後、7月、8月と、夏季で電力需要が増大することが想定されるんですけども、こちらについては、まだ明確な方針は示されておりません。今後、何かしらの動きが出てくるかと思うんですけども、現時点では、まだ、6月から再開というようなことだけが決まっているという状況です。

薩摩学芸顧問 では、美術館のほうに、その全体の方針が定まった段階で、例えば全体として15%を節電しなきゃいけないとか、15%という話が出てきたときに、何か影響が起こる可能性というのはあるんですか。開館時間を例えば、1日1時間減らすとか。

鈴木委員 可能性もある。全くないとは言えないです。

薩摩学芸顧問 全体の方針が定まってくると、そういう可能性というのは出てくるということですね。

鈴木委員 はい。

鉄矢会長 質問ですけども、夏の暑い中、今のところ、今回の計画停電は季節のいいときなので、収蔵庫等影響がなかったと思うんですけども、美術館は停電するととまっちゃうんですか、施設の空調関係。

荒木学芸員 停電から回復しても、自動で空調のスイッチが戻らないんです。スイッチを入れ直さないといけないので、夕方に停電になってしまい、そのまま我々が帰ってしまうと、翌朝まで止まったままになってしまう。

鉄矢会長 夏、外気温が30度を超えた場合は、どんな想定になっているんですか。そういうときにもし止まっちゃって、同じような状況が起こったとき、一応……。

荒木学芸員 停電しても3時間ぐらいならまだ大丈夫です。一晩とまった場合については、そんな記録をとったことがないので。

鉄矢会長 外が30度を超えたり、25度を超えて、収蔵品に影響が出るのか。

荒木学芸員 収蔵庫に関しては、その危険性は考えられます。今年の初夏、結城座展に関しては、文化財というよりも、今実際に使われているものが展示されるということで、結城座さんのほうからの条件は緩やかになっています。また、「朝倉文夫の猫たち」については、出品する作品のほとんどがブロンズ像ということで、絵画などよりは影響を受けにくい。

薩摩学芸顧問 そうですね。不幸中の幸いで、ブロンズでしたら、基本的には人間が生きていける温度の中の変化だったら問題がないです。むしろ、例えば計画停電がどうなるのかわかりませんが、もしもあったとして、切れてしまって、翌日の朝まで復旧できなかったときに、収蔵庫の中の温度があまり上がり下がりすると、日本画と違って油ですから、顔料その他に影響というのはあまりないんですけども、温湿度の変化でキャンバスが縮んだり伸びたりしますので、いいことではないと思いますね。あと紙のものもありますので、ちょっと。

その辺は、ただ、実際に停電になるのかどうかもちよっとわからないん

ですよね。うまくいけば停電にはならないだろうと一応踏んでいるんですけども、もう少し時期が来たら、小金井のほうでも方針が出るかもしれませんが、今、上野のほうでは、大体それぞれの大学とかも全体としての方針を決めて、その方針に従ってどういうふうにしようかと考えているところですよ。

芸大で言うならば、7月は美術館を閉館にすることで、大学全体の電気料を抑えると。26日に前期の授業が終わりますので、美術館はそれからまた再開するというので、15%から20%の節電を行うという、いろんな対応をしていますので、小金井のほうとしてもある程度の方針が出てくれば、それを前提とした上で、美術館も考えていきたいと思えます。

計画停電は、私、大分混乱していたのを見て、東京電力に問合せをしましたところ、結局、悪い言い方をすると、東京電力は電気を売りたいんですよ。だから、計画停電といったら停電してくれと、そのほうがかえって混乱しないと言ったら、しなくて済むならば、ぎりぎりでも計画停電を中止して電気を売りたいということなので、同じことが夏来ると、結構また混乱するかもしれません。

鉄矢会長 そうですね。収蔵庫の中の作品がどうなるかは、ぜひ早目早目に市のほうに情報等共有していかないと。小金井市が美術館を持っているという意識がもしかしたら薄くなってきちゃうと、収蔵庫の中に美術品があるんだよというのを理解していないと、停電でいいんだよとか、閉館時間を短くというのだけで終わっちゃうと危険な気がするので、ぜひ館長、よろしくお願いします。

では、議事内容の2番のほうに入ってよろしいでしょうか。

## 2 その他

### (1) 美術館改修工事・展示室空調等 10月開始予定

鉄矢会長 2、その他、美術館改修工事・展示空調等、10月開始予定ですね。これは、学芸員のほうからの説明でよろしいんですか。

事務局（吉川）コミュニティ文化課のほうからご報告させていただきます。

美術館の改修工事ですが、今年度の予算がつきましたので、建築営繕課が工事をしていかどうかという許可をとるということで、4月1日に東京都へ行ったそうなんですけれども、用途変更は今のままでしないでもいいということなので、いよいよ設計に入ることになっております。

実は、前の市長が3年計画でやると言ったんですけど、市長が替ってしまいましたので、今後どうなってしまうのかというのは心配するところですよけれども、今年度については予算がついておりますので、その中でできる限りのことをやるしかないというふうに思っております。

一番のところが、今、問題になっていました恒温恒湿の空調機のことなんですけれども、それをとにかく一番メインにして工事をするということで、猫展が終わって、10月以降の工事になるかと思えます。

あと、設計なんですけど、メインが多目的室をつくって、展覧会会期中でもワークショップや講演ができるようにしたいというもう一つの目標が

ありまして、一応建築営繕課のほうの設計では、壁を取り払って、ワンルームにするという設計の委託をするとは言っておりますけれども、いかんせん予算がどこまでもつかというところなので、もしかすると、壁紙をはがして、途中の状態で終わってしまうかもしれないんですね。来年以降、どうしようかというところは、今、館長と相談しているんですけども、この美術館をつくったときの提言にも載っているように、ぜひ市民が参加しやすい美術館に持っていきたいなと思っております。

今年、開館5周年ですけれども、次の5年、開館10周年に向けてどういう方針でやっていけばいいのかということも含めて考えていかななくてはいけないかなと思っております。

10月から工事が始まる予定ですので、10月からは閉館になる予定です。今、工事の期間が、まだ設計ができないとはっきりしないので、次の所蔵作品展が年度末ぎりぎりになってしまうかどうかというところで、予定が立たないような現状になっております。

## (2) その他

鉄矢会長 2番のその他の(2)のその他に入りますか。

事務局(吉川) では、続いてお話をさせていただきます。このクリップどめの資料ですけれども、1枚目は、また後ほどご説明させていただきます。

2枚目に、博物館登録及び博物館相当施設指定という東京都教育庁の文書がついておりますけれども、はげの森美術館は博物館相当施設の登録もされておらず、去年、企画政策課から東京都へ施設白書を提出したときに、「美術館あり」と提出したら、「博物館登録されていないから、美術館ありとは認められない」というような事を言われたということと、あと、登録していないと、文化庁の基盤整備事業にも応募できませんので。当館は教育委員会の所管ではないということと、常任の館長、常勤の学芸員がないということで、登録博物館にはなれないんですけれども、相当施設登録というのを、今年度しようと思っております。今、東京都とコンタクトをとっております、6月の頭に説明を受けに来るよということと言われております。事務手続はコミュニティ文化課のほうでやりますので、なるべく今年中に手続きを完了したいと思っておりますけれども、登録に半年ぐらいかかるということなので、今年度いっぱいの中にはこれをやりたいなと思っております。

1枚目に戻りますけれども、先ほどもお話ししましたが、次の5年、開館10周年に向けて、このはげの森美術館はどういう方向性でやっていけばいいのかということで、ソフト部分については、学芸員と学芸顧問の先生と委員の皆さまとお話し合い等をして、進んでいけばいいと思っておりますが、ハードの部分、今の改修の部分について、この3本の柱で、続く5年の間に進んでいけばいいかなということで、目標としてこれを出させていただきました。

1点目としては、今の改修の話ですね。2点目なんですけれども、庭に

花侵庵という茶室があるんですけども、この茶室が今、ぼろぼろの状態  
で、せっかくあるのに宝の持ち腐れという状況になっています。2階の改  
修とあわせて、一応、中期財政計画の中では3年計画で、茶室の改修まで  
含めて考えていますが、茶室の部分については、去年から神奈川大学の内  
田青蔵教授に講演を依頼したりしておりますので、来年度については、こ  
の内田先生による調査と、別途、文化庁のパンフレットがついておりまし  
たけれども、登録有形文化財建造物というのを登録して、登録が通ります  
と、文化庁のほうから修復のお金が補助してもらえますので、市の財政が  
厳しい中、ある程度、歳入の裏づけがないと、こういうものについての話  
が進みませんので、まず、登録有形文化財建造物というのに登録をして、  
修復に当たりたいというふうに思っております。

内田先生のお話によりますと、この登録有形文化財建造物というのは、  
建築後50年たったものから登録できますので、この茶室・花侵庵と、今、  
喫茶棟として使っている、中村研一の旧宅部分も含めて登録有形文化財建  
造物に指定してもらえたらというふうに思っております。佐藤秀三という  
建築家の建物ですので、佐藤秀三ゆかりの工務店に保存修復をお願いでき  
れば良いというふうに思っております。最終的には、市民の方に公開して、  
茶室の利用を開始できるようになればいいと思っております。

もう一点なんです、2回ぐらい前の運協の中でも話題になっていた、  
美術館の庭の手入れをもう少しどうにかできないのかという事ですが、そ  
れについては、なるべく市民参加の形でやっていけるような方向性を考え  
ていきたいなと思っております。ちょっとここに、勝手に鉄矢先生のお名  
前を書いたんですけども、鉄矢先生と学芸顧問の先生などと相談して、  
ランドデザイン（全体構想）を立てた中で、今後の、改修ともリンクして  
くるんですけども、多目的室ができた場合は、研一のはけの歴史とか、庭  
がはけの部分ですので、そんなことを学習していった上で、市民参加の  
方策を考えていこうかなと。なかなか先の長い話なんですけれども、  
そんなことを考えております。

下に課題が何点か書いてありますが、改修についての課題は、先ほども  
お話ししましたが、今年度終わらなかったとき、来年度どうなるかという、  
財政的な問題が一番大きいのですけれども。

あと、無事に多目的室ができて、講座等を開始した場合に、やはり人的  
問題が発生してくる、それをどうクリアすればいいかということが課題と  
してあります。

茶室については、利用の方法と、施行規則等の改正は、こちらの事務方  
でできるのですけれども、よりよい予約の方法とか、利用の方法とかも考  
えていかなければいけないかなと思っております。

庭のお手入れなんですけれども、この間、顧問の薩摩先生たちと打ち合  
わせをした際に、ボランティアってとてもいいんですけども、職員のほう  
は数年でどんどんかわってしまって、ボランティアさんはずっといると  
なると、うまく制御がきかなくなってくる部分があるということをお聞  
きしまして、美術館の庭であるということをお聞きしまして、市民参加を募

るということの難しさがあるかなど。ある程度、枠をはめないと、制御がきかなくなっているという他館の前例もあるということをお聞きしたので、その辺をよく考えてやっていかないと、楽しい事や、理想ばかり追い求めると、なかなかうまくいかない部分が出てくるのではないかということが課題かと感じております。

緑地なんですけれども、環境政策課から、コミュニティ文化課に移管されておまして、はっきりしない部分があったので、環境条例との関係で、いろいろ木を切ってはいけないとか、タケノコを抜いたらいけないというような話を聞いたので、どうなんだということを今回、館長に、環境政策課のと調整してもらいまして、やはり美術館の庭だということで、うちの課の管理でやっていくということがはっきりいたしましたので、こういう形で美術館の庭としてどうしていくのかという方針は立てていけないかなというふうに思っております。

こんな3つの柱をある程度、先を見通して、方向性をつくっていかないと、やはり私たち事務方もかわりますし、学芸員さんたちもかわってしまいますので、どなたがはげの森美術館に来て、こういう方向でやっていくんだよというところを今の時点で、ある程度、はっきりさせたほうがいいかなと思ひまして、このような3本の柱でどうですかということをご提案させていただきますので、ご協議いただければと思います。ご意見等をいただいて。

鉄矢会長 ありがとうございます。では、今の3本の柱も含めて、少しご意見、ご質問等ありましたら、お願いいたします。

さっき、茶室で、補助金が出るというのは、文化庁から出るんですか。

この制度は、相続税と評価額を10分の3に免除とか、いろいろ書いてありますけど、もともと50年もたった建物は、評価額がないんですよ。ほとんど何にも、そういう意味では、登録しなくてもいいかなと思ひている人がいっぱいいる。なかなか進まない理由なんです。もう少し得な仕組みにしないと、ほんとうにこれは……。

事務局（吉川） そうか、ばら色ではないですね。

鉄矢会長 ええ。ただ、多くの人が登録文化財というだけでも、一応国の文化財の1個になるので、箔はつきます。

事務局（吉川） 内田先生のお話だと、文化財にならないと、今の建築基準法で工事をしてしまうことになり、以前の趣がなくなってしまうので、まず、文化財に登録したほうがいいとは言われました。

鉄矢会長 市の文化財制度ってあるんですか。教育委員会が持っている。

事務局（吉川） あるんですけど、どうなんでしょう。建築の専門家がないので、建築関係はと二の足を踏まれたというお話は聞いた事があるんですけども。

鉄矢会長 でも、登録文化財と並行して、市の文化財にしてしまうとか……。

荒木学芸員 両立はできなかったはずですよ。

鉄矢会長 ああ、そうなんですか。

荒木学芸員 たしか国のになると、市のほうは取り消される、何かそんな感じです。

千村委員 この間、美術展を見に来た帰りに、お庭のところに寄ってみたら、男性

のボランティアですか、池の藻の掃除だか何だか、何かやっていましたね。  
神津学芸員 多分、それはほたる村の方だと思います。

千村委員 それって、ほたる村の人は、市民サポーターみたいに手伝ったりしているんですか。三、四人の男性が。

事務局（吉川） 蛍が減ってしまったらしいんです、去年、数が減ってしまった。それはコミュニティ文化課で、池をさらったせいではないかというふうに言われました。

千村委員 そう、風評がすごいです、それ。

事務局（吉川） 言われたんですけど、うちの課ではやっていないし、入っている業者さんも、造園業者さんが入っていますし、池の上のごみとかを取ったりとかしていますけれども、完全に底からさらったりはしていないんですね。そういうお話は、館長のほうでしているんですけれども。

千村委員 なんか蚊がいっぱいいるので、さらってくれっていう人がいて、さらったから、蛍が少なくなったというふうな話を聞いていたんですけれども、そういうことはなかったんですか。

事務局（吉川） そういう事はありませんが、館長宛にそういう苦情はきました。で、ほたる村である程度、やりたいから、勝手にやってもいいかということなので、どうぞというふうには言ってありますけれども。

千村委員 池はそうだけでも、お庭なんかも、前は喫茶棟に入る石のところは、カタクリなんか植えていたんだけど、もう雑草がいっぱい生えて、ほんとうにお庭は雑草だらけになっているんですよね。だから、やっぱり市民サポーターの扱いって、どんなところが大変か、それはわかるような気がするんだけど、あんまり荒れ放題にならないうちに、ちょっと好きな人たちにちゃんとルールでもつくって、見てもらったらいいぐらいな今、感じがしますよね、

神津学芸員 そうですね。ただ入っていただければいいというような状態じゃないと思うので、その辺は、やはり一本、市の方針として揺るぎのないものを、美術館の方針を一応決めて、順々にやっていったほうが、最終的に長く続くのではないかなと思っています。確かに、今、荒れていて目につくというのはあるとは思いますが。

鉄矢会長 今、荒れているところは、短期で一緒にきれいにしませんかみたいな応援隊を募集して、1回限りで、とりあえず終わるみたいな格好というのは、あるのかなと思うんですね。おっしゃるように、結局、お抱えの庭のようになってきて、庭への愛着が出てくると、いじられるのは嫌だと思ふ心が出てくると、それこそ先ほど言っていた、美術館の庭なのか、だれの庭なのかわからなくなってしまうというのが出てくるだろうなと思うので、そのところが、そもそも庭って、人が元気になるためのものなので、人が元気になるというのは、学芸のスタッフもそうですし、美術館に来る人みんなが元気になるためにあの庭が使えればいいんですけれども、あの庭をあしちやいけない、こうしちやいけないと言って、何か守るための庭で、ストレスをみんなが抱えているんだったら、よくないはずなので、守る庭ではない気がするんですね。もっと使う庭で、楽しむ庭にする方法という

のを、こういうふうにしたいというのを、もしかしたら、その辺の方策を市民参加で決めていければ、できるのかなど。

おれは第何期でやっていたんだ、おれたちがやっていたときはこうだった。第7期、第8期というような格好で入って……。

神津学芸員 学芸のほうでは、まだ調査が進んでいないという反省は大いにある点なんですけれども、まず、第1に研一の庭であるというところは、美術館として崩してはいけない点という共通意識を持っています。庭を描いた作品が多数ありますし、これは同じアジサイじゃないかとか、ツバキはあの絵にかいてあるとか、日記には研一が野菜を育てていたりという記述もある。まだまだわからないものもたくさんありますし、もしかしたら、もう枯れてしまっているものもあるかもしれないけれども、でも、絵や写真資料からたどれば、ここにこれが咲いていたとか、あったとかいうことが判別できるんじゃないかと学芸の中でも話しています。

市民参加が大事だということはわかりつつ、それはやっぱり難しいという話に結局なっている点というのが、庭の学芸的な調査が一向に進んでいないということもありまして、先ほどのお話で、使う庭である、生き生きした庭であれかしというのはあるんですけども、もう少し美術館としての方針というのをきちんと掲げてからでないと、当分、動けないかなという気はしています。ほたる村の方にもすごく助けられている、庭を見てくださっているのですけれども、ちょっと美術館の庭としてそぐわない面もある。きっとザリガニのせいなんですね、蛍がいなくなってしまったのは。ザリガニを捕獲するわなのようなものをある日突然、湧水の池に設置していかれまして、恥ずかしながら、そんなに毎日、庭の監視をしているというわけではしないので、お客様を案内したときに、ごみが捨てられているのかと思ってすごくびっくりした。よくよくたどって見ると、ほたる村の方が蛍のために設置したものだんですけども、ぱっと見は、ペットボトルでつくってあって、美術館の庭の中にごみが捨てられている、というような感じにもなるんですね。それは蛍のためだというような告知があれば、別だったかもしれないんですけども、でも、それは美術館としてどうしたらいいかわからないし、結局、夏はそのまま終わりました。市が整備しきれないのをしてくださっているのであんまり文句を言えないのですけれども。まず、中村研一の庭であるという点を踏まえた上での動きにしないといけないのかなというふうに美術館のほうで話しています。

千村委員 やっぱり鉄矢先生が言われるように、長期のボランティアじゃなく、1回だけでも、例えば雑草取り隊みたいなのがぱっと入って、雑草を取るというのをやって、雑草だけでも取ればいいみたいに思いますけど、今のお話を聞くと、何が雑草なのか、実は、雑草が研一のお庭の大事な植物の群落だったりするということもあるわけで、そうすると、1回限りの草むしり隊なんかでも、ちょっと入って取れないというのがありますよね。

そこの周りの武蔵野公園は、全部自然の植物というか、野生のものなんですよね。その中に最近、金色の黄色いコスモスを植えたり、ホウセンカを植えたりする人が出てきて、それは秋になると咲いて、みんな、きれい

だわねなんか言うけど、私なんかは、自然公園なんだから、野生のものが入れかわり立ちかわり生えれば、そのほうが大事なので、あんまり人間が何か植えて、次々きれいではあるけれど、それって自然公園でいいのかなと思ったりするので、そういう意味で、ここのお庭もしっかり調査というか、方針、庭の方向性が決まらないと、決して1つの草も取れない感じだなど、今のお話を聞いて思ったんですね。

例えば、ハコベなんかいったら、ハコベの花は雑草だとか思うけど、あるいはカキドオシとか、オドリコソウといったら雑草だとか思うけど、それらがそこのお庭の群落だったりしたら取れないし、すごい難しいなと思いますね。

鉄矢会長 今、聞いていて、神津学芸員のほうから話があったように、美術館としての方針を決めるのが約1年かかる。5年間かけて、この方針をとにかく決めていって、5年後に開館10年のときには、ある程度、仕組みが1回目ぐらい動くようになるような想定を考えないと、提案していったことがうまくいかないということね。

神津学芸員 はい。

鉄矢会長 じゃ、1年ぐらいでこの方針を調べるというのか、学芸が美術館で、今、作品の中から今度、庭のほうにもエピソードに手を出していくという作業量とか、そういうものが今後、どこでどういうふうにやるのか。それが1年間かかるのか、2年間かかるのか、どういうステップを踏めばそれができるのかというのをこれから話さなきゃいけないんでしょうね。今、決めるわけじゃないんだらうと思いますけど、ボリューム感もまだ見えていない世界なのかなと思ってはいますけれども。

神津学芸員 今、目前に迫っている庭の手入れ不足というのも実際にあるんですね。秋の落ち葉を取る回数なんかは、圧倒的に少ないんですよ。お客様が危ないのではと思うぐらいに落ち葉が積もっている。半日でもうすごいことになるので、それを小まめに掃除したりするとかの、ほんとうに基本的なメンテナンスができていないという点もある。抜本的なメンテナンスができるほどの調査というのは、おそらくこのままだと、ほとんどする時間がない状況にあります。どうしたらいいのだからうという気持ちです。

鉄矢会長 今、結局、庭が研一のものであるという意識は、市にはないわけですね。市は、緑地公園とか、緑地としてしか見ていないので、その予算でしか何も考えていないのではないかと考えていて、それが中村研一の庭であるという価値に対しての何かしらの話があると、調査しなさいとかいう話の予算が出てくるんじゃないかなと思うんですけども、違いますかね。

鈴木委員 私、個人的な考えでは、研一にこだわる理由がさほどあるのかなという気はしているんですよ。というのは、やっぱり研一に関心がある人はいいかと思うんですけど、美術館そのものに対して今後、新しい関心のある方の層を開拓していかなくちゃいけないという課題もあると思うので、美術館に附帯してある美術の森緑地というものをより多くの方に親しんでもらうというようなことで、見ばえであったりとか、景観であったりとかという部分では、研一の庭というものにこだわる必要もあまりないのかな



と。本来、研一さんの美術館なので、全く切り離してしまえばいいというものではないんですけど、そこまでこだわる必要というのは、今後のことを考えると、新しい美術館ファンの層を開拓していくという意味では、どうなのかなという気はしていますけどね。

緑地としての価値を高めていく必要性といったものも、ある程度、考慮していく必要があるのかなとは感じています。

鉄矢会長 そうですね。今、まだ調査がされていないので、この辺の話が調査を進めて、エピソードがもっと見えてきてしまったら、多分、この庭はエピソードがある庭としての、さっき言った、美術館の新しいファンもそういうエピソードに引かれる人も出てくるんだと思うんですね。なので、ここの調査というのをどういうふうに予算化するかなんでしょうね。ただ、働く量が増えるんじゃないかと、どこかで予算化していかないと、この調査はできないということですよ。

調査しないといけないなと思うのは、庭って、一度なくなったら、もう復活はできないので、なくさないようにはしなきゃいけないなと。

千村委員 実際問題として、中村研一さんは、お庭の植生みたいなものとか、お庭づくりにはこだわっていたような記録というものは、何かしらしっかりあるんですか。

神津学芸員 土いじりしているときの写真が多数残っていますし、くわはよく持っています。そのまま庭でかいた作品というのがたくさんありますので、かなりの付加価値なのではないかなと思います。

千村委員 そうすると、美術館というものもさることながら、お庭の、先生の言われたような調査というか、中村研一流のものがあつたとしたら、それがどのように残せるものかみたいなこともすごく大事になってきますね。それらは、ほんとうにお金がないとできない調査ですね。

荒木学芸員 5周年展の後半部分は、小金井に来てから描かれた作品をメインにして、庭ですとか、自宅周辺を描いた作品をたくさん展示したんですけども、それに対して、この作家さんがここにいたんだねという感想を言ってくれるお客様が非常に多くて。展示室で作品を見てから、お庭もありますよと案内する場合もありますし、お客様がご自身で気づかれる場合もありますけど。

お庭を見に行つて、中には、わざわざ受付まで戻つてきて、ほんとうにあつたねと言ってくれる方もいらっしゃる。そういった点は大事にしていきたい。守りたい一線だなと考えています。

神津学芸員 特に、震災直後の12日は休館しましたがけれども、13日の日曜日にあけたときに、開館を待っていたお客様もいらして、その方がすごく喜んでくださって。職員も全員事務室で待機している状態で開館だったので、すごく実感しました。

薩摩学芸顧問 きょう、各論に入っちゃっても困ると思うんですね。要するに、流れとしては、言ってみれば、この5年間というのは試行錯誤の形で来たんですね。これはもう、実はどこの美術館でも大体そうで、建物が建つ前に、提言とか理念とかいろんなものがあつても、実際に建つてみると、そのとお

りにはなかなかいかないものなんです。どうやっても、1年1年試行錯誤でいくしかない。そういう中で、やっぱりできることはできるし、できないことはできないしがわかってくるんですよ。

実は、今、私、府中のほうの委員もやっているんですが、府中は去年が10年目か何かでありまして、あそこも同じことで、この10年は試行錯誤だったなど。次の10年でちゃんとしたものを引き継ぐべきだというぐらいに思ったんですね。そうすると、府中とこちらの規模のことを考えれば、多分、試行錯誤に5年、そして、この提言を踏まえた上ではっきりとした個性を立てる5年というのが、スパン的に言えば、ちょうどいいぐらいではないかと思っています。

そういう中で、まず、手続的な面で博物館相当施設にする。あるいは、お茶室を文化財登録するというのはやっていくべきだと思いますし、ソフト部分はともかくとして、ハードに関しては、やっぱりこの3本の柱は正しいと思うので、というのは、この美術館の特徴というのは、大きくはないけれども、美術館があり、お茶室があり、そして、建物があり、庭がありというのが特色で、新たにこういう美術館をつくろうと思ったら大変ですからね。緑地の整備から始めて美術館、お茶室までつくってなんていうことは。そういうことを考えれば、まず、この3本がハード的な意味でのこれからの柱であるということは、ここでしっかり認識して、承認すべきだと思います。

そういう中で、一番課題になってくるのは、多分、庭の問題だろうと思います。というのは、ある意味で、一番公共性が強い部分でありますので、そういうところというのは、いろんな人がいろんな立場からいろんなことを言うてくるでしょうから、それを総合していくのは非常に難しいし、また、はっきり言いまして、美術の専門家であるから、庭のことはわからないわけですから、これは場合によっては、庭の専門家も含めて、何か動かなければならないと思っています。

ただ、動く前に、次の5年、できれば、3年ぐらいに一步でも進める柱として、この3つをここではっきりと認識されれば、きょうはとりあえずは十分だと思います。

鉄矢会長 ありがとうございます。今、顧問のほうからお話がありましたように、美術館の運営協議会として今後、この提案のあった10周年に向けて、改修と茶室と庭という3つの柱は、これでやっ払いこうと。この3本柱であるということを皆さんご確認というか、認めていただくような形はいいでしょうか。

承認

鉄矢会長 全員一致で、一応皆さんご確認いただいて、これでいきましょうという格好になっておりますので、きょうは、一応この3本柱は確認したということになります。

さらに、庭のところは、これから難しいところでしょうけれども、今、確認の前にあったような議論がありますし、じゃ、ほんとうにどこの方針なんだろうとか、どういうふうによれば手が動くのかとか、前に進められるかを少しまた、機会を

見て、皆さんも頭をひねっていただいて、やっていきましょう。

その他、ほかにありますでしょうか。では、次回の日程を決めたいですね。

協議

鉄矢会長 では、7月26日、18時。場所はまだわからないですね。スケジュールは、次回のときには9月のあたりをもう一回決めるということで。

その他、5周年展の入場者数が出ていますけど。

事務局（山田） では、その点だけ補足で説明させていただきます。現状、それが連休のところまでということで、累計で、無料入場、招待券等の方々を含めまして、972という数字をお出ししておりますけれども、この前の土日が中村研一の誕生日ということで、無料開放日ということで、14日土曜日が95名、15日が124名お見えいただいたということを含めまして、トータルで現状、有料の大人の方が763、子供の方が24名で、先ほど申し上げた、2日間の無料観覧日も含めて、430名ということで、トータルで1,217名、1,000名を超えたという状況でございます。

あと1週間、ぜひご来場賜りますように、ご案内いただければと思います。

鉄矢会長 その他、何かございますでしょうか。

事務局（吉川） 文化振興基金の助成金がとれましたので、結城座展は多少、助成金がついております。

鉄矢会長 ほかに何かございますでしょうか。よろしいですか。

では、平成23年度第1回小金井市はけの森美術館運営協議会のほうを閉会したいと思います。

ご苦労さまでした。

— 了 —